

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 10 - 46

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		給食センター調理業務委託事業										
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名		学校給食係						
	管理職	職名	給食センター所長		作成者	職名	技師補					
氏名		高橋健仁		氏名		柳生幸子						
事業の概要	調理業務の外部委託実施					全体計画						
						(平成 20 年度 ~ 24 年度)						
						事業費	国・道支出金					千円
							地方債					千円
							その他					千円
一般財源	68,860				千円							
事業費計	68,860				千円							
実施方法	直営	民間委託		その他 ( )								
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	B						
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~									
	基本施策	12	学校教育の充実									
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実									
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務								
	その他計画・根拠等											
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)						
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円						
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円						
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円						
	雄武町負担額 (一般財源)	13,772 千円	13,734 千円	13,772 千円	13,772 千円	13,772 千円						
	合計	13,772 千円	13,734 千円	13,772 千円	13,772 千円	13,772 千円						

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小中学校児童生徒及び教職員等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	調理員の高齢化	衛生面で安定した給食供給の維持			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安全な給食の供給 調理の迅速化 経費の軽減	正規調理員の数	目標年度	平成21年度	
			目標値	4 人	
			実績値	4 人	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	給食の質の向上 安定した給食供給の保持 衛生面の充実 職員の労務管理の軽減 給食センター運営のコスト削減		目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
給食の調理業務をも民間業者に委託	町外調理会社との委託契約による調理業務遂行				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	栄養計画やそれに伴うレシピ作成については、教育的配慮から行政が責任をもって行う必要があるが、調理部門については、信頼できる民間に委託した方が、調理員の衛生管理や分業において有利であり、コストの削減につながる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	調理員の感染症等の問題もなく、安定した給食を供給できた。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	賃金単価の再計算による委託料の抑制が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	安定的かつ安全な学校給食を提供する体制づくりは町内小・中学校全児童生徒に学校給食を公平に提供することが可能となるものである。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価(A~D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今まで大きな事故等もなく、順調に展開している。		

<p>今後の展開方向 (Action)</p>		
<p><b>継続 / 現状維持</b></p> <p>今後の児童生徒数の推移により事業規模等に変動が予想されるが、今後も外部委託という方向で継続していきたい。</p>		
<p>* 展開方向の区分          継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止</p>		

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 10 - 47

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		学校給食センター施設整備事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	学校給食係		
	管理職	職名	給食センター所長	作成者	職名	技師補	
		氏名	高橋健仁		氏名	柳生幸子	
事業の概要	昭和54年に開設以来、30年を経過し、施設の老朽箇所や長期使用による傷みの激しい調理機器等を順次整備・更新を行う。					全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
						国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
						一般財源	25,960 千円
事業費計	25,960 千円						
実施方法	直営	民間委託	その他 ( )				
第5期総合計画(前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	12	学校教育の充実				
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実				
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	22,260 千円	1,806 千円	2,550 千円	1,000 千円	3,500 千円	
	合計	22,260 千円	1,806 千円	2,550 千円	1,000 千円	3,500 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	学校給食センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	施設・機械等老朽化が激しい	厨房等機器の更新			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	衛生的で、故障のない機器等の配置	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
		機器更新数	目標年度	平成21年度	
			目標値	2 台	
			実績値	5 台	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	安定した給食供給の保持 衛生的で、安全かつスムーズな調理作業の実現	施設内改修箇所	目標年度	平成21年度	
			目標値	3 件	
			実績値	3 件	
			達成度	100 %	
内容(どのような手段で何を行ったか)					
調理用備品購入(更新)	自動ガス炊飯器(609千円)、サイノ目切機(467千円)、牛乳保冷库(473千円)、チェストフリーザー(74千円)、スノコ(21千円)				
給湯暖房設備用小型蒸気ボイラー関係修繕	熱交換器蒸気電磁弁修繕(74千円)、旧蒸気ボイラー修繕(84千円)				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	給食を提供する施設として衛生的な調理環境を保持する必要がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	スムーズな調理作業の実現により、調理時間の短縮が図られた。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	調理機器の更新は、給食数の推移を見て順次小型化・安価なものを購入し、コスト削減に努めた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	安定的かつ安全な給食の供給に資するための施設整備は、町内小・中学校全児童生徒に学校給食を公平に提供することが可能となるものである。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価(A~D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
老朽化した機器類の更新により調理作業等がスムーズに行われ、給食時間の遅れなどの問題が発生しなくなり、今後も計画的に更新していく必要がある。	同左	



継続 / 拡充	継続 / 拡充	
施設・備品等耐用年限を過ぎたものが多々あり、計画的に更新する必要がある。	同左	

\* 展開方向の区分  
 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)